

DI 調査結果 (令和2年7月-9月期)

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『新型コロナウイルスの影響で不透明感はぬぐえないものの
景況感は7期ぶりに改善し底をついた感はある』

【調査概要】

1. 今期(令和2年7月-9月期)の業況調査DI12項目では、2期ぶりに全項目がマイナスとなったが、「来期受注」など8項目が改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」が▲62.4(前回▲78.1)、「収益状況」も▲65.0(前回▲74.8)と、若干改善され、持ち直しの動きがみられる。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲61.4(前回▲61.0)、「受注残」▲24.9(前回▲27.4)、「生産設備」▲27.9(前回▲26.7)と、引き続き厳しい状況にあり、一部休業を余儀なくされる状態にある。
3. 来期については、「来期受注」▲26.5(前回▲64.6)、「来期採算」▲33.4(前回▲62.8)、「来期資金繰」▲30.5(前回▲49.5)と、大幅な改善がみられるなど、景況感は7期ぶりに改善し底をついた感はある。
4. 「企業経営上の悩み」については、新型コロナウイルスの影響で「受注不安定」が77.1(前回70.0)とリーマンショック時を超える過去最多となった。一方、「資金繰り」が2.6(前回8.4)と改善され、新型コロナウイルス感染症緊急特別融資等の活用がなされたことが伺える。
5. 今回2期ぶりに全項目がマイナスとなり、米中貿易摩擦による景気失速に加えて新型コロナウイルスの影響が拡大して、引き続き厳しい状態にあるものの、来期に更なる改善の兆しが見受けられる。しかしながら、依然として新型コロナウイルスの影響等により、状況が一変する懸念があり、国・県による更なる資金繰りや雇用維持などの経営安定対策とともに、国による各種規制改革による経済の活性化が必要と思われる。

